

## 令和8年第2回（3月）定例会 代表質問通告表

| 順 | 質 問 事 項   | 質 問 者          |
|---|---|----------------|
| 1 | <p>1 地方創生が10年の節目を迎え、総括すべきと考えるが、どうか<br/>地方創生が2024年に10年の節目を迎え1年が過ぎ、内閣府が総括しているが、佐渡市としても総括して、検証が必要と考えるが、どうか</p> <p>2 行財政改革について<br/>(1) プライマリーバランスゼロを目指しているが、目指す必要があるか<br/>(2) 財政調整基金の基準15%の積立て目標と意義について</p> <p>3 佐渡市の人口対策について、県・新潟市、また、産学官金との連携を図り、新たな取組が必要ではないか<br/>(1) 県と新潟市と連携して、新潟県のダム機能強化を図り、人口増加を図るべきではないか<br/>(2) 2040年問題を抱え、生産年齢人口の確保と今後の見通しについて</p> <p>4 公共施設(老朽化施設)の床面積の増大に伴う減少計画と空き家の取扱いについて<br/>(1) 学校統合により床面積の増大が見込まれるが、今後の減少計画について<br/>(2) 今後、更なる空き家の増大が見込まれるが、佐渡市の対応について</p> <p>5 佐渡市医療圏の今後の在り方、構築について<br/>(1) 人口減少の社会を迎えて、病院の診療科の維持と病院の継続性確保について<br/>(2) 病院の根幹である、医療従事者の確保を行政としてどのような関わりを持って支援・対応するのか</p> <p>6 ふるさと納税の拡大と活用について<br/>(1) ふるさと納税の15億円目標達成のため、民間事業者とのプロモーションの強化を進め、更なる拡大を進めるには<br/>(2) ふるさと納税の用途は限定されているが、新たに公共の老朽化施設の解体も含めて、佐渡市全体の整備を進めてはどうか</p> <p>7 健康寿命日本一と高齢者のマインドフルネスについて<br/>(1) 高齢者社会を迎え、多くのお年寄りが買い物、病院での受診等に困っているが、デマンドバスの運行を検討すべきではないか<br/>(2) 高齢者世帯・高齢者一人世帯の増加による、高齢者の人々の身体的健康の保持や維持をどのように守り、健康寿命日本一を目指すのか</p> <p>8 インバウンドや観光客に対する対策について<br/>(1) 世界遺産に登録され、今後インバウンドや観光客の増加が見込まれ、泊食分離や体験型観光の需要に対し、二次交通のレンタカー・タクシー等の数が不足していると思うが、対策はどうするのか<br/>(2) インバウンド客に対する、多言語対応が遅れていると感じるが、対策の目途は立っているのか<br/>(3) 民泊施設が、業界としての秩序が保たれておらず、今後の健全な発展・育成を促進するためにも、組合等を組織すべきではないか</p> <p>9 教育行政について<br/>(1) 教育行政方針の中で、全国学力・学習状況調査や各種学力テストの結果を詳細に分析し、学校別に成果や課題を的確に把握して、授業改善を図るとあるが、具体的には個別にどのような改善・指導を図るのか<br/>(2) 本年度より私立高校の授業料が免除となっており、今春はかなりの生徒が佐渡から新潟の私立高校へ入学すると聞いたが、人数的にはどのくらいか把握しているのか</p> | 政 風 会<br>山 本 卓 |

| 順 | 質 問 事 項   | 質 問 者                 |
|---|---|-----------------------|
| 2 | <p>1 高市政権が「責任ある積極財政」へと財政運営の考え方を転換する方針を示している中、今後の佐渡市の財政運営について、どのように考えているのか</p> <p>2 昨年の参議院選挙で争点となった外国人材受入れについて</p> <p>(1) 「外国人材雇用促進枠」を創設した経緯と目的について問う</p> <p>(2) 外国人材の受入れにあたり、文化・生活習慣・社会ルールの違いについて、どのような周知や教育を行っているか</p> <p>(3) これから佐渡に外国人が増えていく可能性に対する市長の見解は</p> <p>3 昨年の参議院選挙で争点となった環境政策について</p> <p>(1) メガソーラー開発に対する規制強化に向けた、条例改正の検討はしているのか</p> <p>(2) 太陽光発電とEV（電気自動車）の導入についての今後の考えは</p> <p>4 佐渡市で課題となっているUターン・人材確保施策について</p> <p>(1) Uターン者数の推移と各種事業の成果をどのように分析しているのか</p> <p>(2) 複数事業を個別の事業者が実施している現状について、マーケティングや「最大の効果を最小のコストで」の視点からどのように評価しているのか</p> <p>(3) 島外企業のUターン者が数年で離島する課題への対策をどのように講じているのか</p> <p>(4) Uターンを増やすためにどのような対策を考えているのか</p> <p>(5) 「島の推しごとグランプリ」事業を今後どのように発展させていこうと考えているのか</p> <p>5 佐渡市で課題となっている今後の佐渡に必要な分野への人材投資について</p> <p>(1) 佐渡市の生活基盤を支える業種・職種を特定し、重点的に投資を行う考えはあるか</p> <p>(2) 奨学金返還支援の拡充や資格取得費用の全額補助など重点職種への支援の強化、市職員に対する資格手当や業務従事手当の導入など、有資格者確保策についての考えは</p> <p>6 市職員・島民の能力を引き出す環境づくりについて</p> <p>(1) 「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度を実現した際のターニングポイントは何だったのか</p> <p>(2) 今後、「個の能力を引き出す環境づくり・プロセス」について、どのような姿勢で取り組んでいくのか、市長の見解を問う</p> | <p>新生クラブ<br/>広瀬大海</p> |

| 順 | 質 問 事 項  | 質 問 者                         |
|---|--|-------------------------------|
| 3 | <p>1 医療問題対策について</p> <p>(1) 佐渡総合病院の現状と支援</p> <p>(2) 島外で看護職を目指す学生への支援と佐渡看護専門学校の将来戦略について</p> <p>(3) 在宅医療・在宅介護の充実</p> <p>(4) 医療従事者の定着戦略</p> <p>(5) 救急体制の持続可能性</p> <p>(6) 高齢者施設の今後について</p> <p>2 人口減少対策について</p> <p>(1) 人口減少の現状認識と危機感</p> <p>(2) 帰省者支援を含めた若者との関わりについて</p> <p>(3) 二重流出問題</p> <p>3 教育問題について</p> <p>(1) 部活動地域移行に伴う課題について</p> <p>(2) 保育園・幼稚園の再編統合計画について</p> | <p>リベラル<br/>佐 渡<br/>平田和太龍</p> |

| 順 | 質 問 事 項  | 質 問 者        |
|---|--|--------------|
| 4 | <p>1 安心して暮らし続けられる島づくりについて</p> <p>(1) 公共交通の再編と市民満足度向上の目標に向け、市営コミュニティーバスへの移行計画と循環バスの実証調査はどのように関連していくか</p> <p>(2) 地域コミュニティー活性化のための活動支援はどのように行っていくか</p> <p>(3) 人口減少が進む中、自治組織をどのようにして維持していくのか</p> <p>(4) 防災組織の確立は急務だが、さらに進めるためにどのような対策を計画しているか。また、被災者へ災害復旧の進捗状況を周知することで復興がよりスムーズに進められるのではないか</p> <p>2 人が賑わう元気な島づくりについて</p> <p>(1) 佐渡観光に注目してもらうためには、世界遺産登録は重要な切り札となるが、その先の深い魅力を知ってもらうためには、芸能文化継承の取組は大切だ。支援策はどのように考えているか</p> <p>(2) 二次交通の課題と改善策をどのように対応していくか</p> <p>(3) UIターン就職支援の成果と課題をどのように評価しているか</p> <p>(4) 支所の市民センター移行は、健康寿命日本一実現に向けての取組に対して影響することはないか</p> <p>3 行財政改革について</p> <p>(1) 基金に依存しない財政運営のために何をすべきか</p> <p>(2) 組織の見直しと業務効率化を進めるためには、デジタル化を進めることは必要だが、その副作用をフォローする対応も必要になってくるのではないか</p> | 佐渡の声<br>中川健二 |

| 順 | 質 問 事 項   | 質 問 者            |
|---|---|------------------|
| 5 | 1 佐渡市非核平和都市宣言に基づき、市として非核三原則の堅持を表明すべき<br>2 「日中韓トキ自治体サミット」や台湾・高雄市との交流を促進し、佐渡を環日本海の平和の拠点として価値を高めるべき<br>3 新規就農者への就農支援をパッケージとして整備し、持続可能な移住支援を構築すべき | 公 明 党<br>山 田 伸 之 |